

# 高い子牛死亡率

牛をはじめとする畜産業が盛んな本県。だが、全国と同様に新生子牛の死亡率は、20

## 未来を開く

青森産技センター報告

—24—

頭に1頭の割合(5%)と非常に高いのが実情だ。死亡率が高い理由は、初めて分娩を経験する、体形の小さい未経産牛で難産が多いほ

# 分娩検知システム開発

か、胎子が逆子等の状態のまま分娩されて死産となるケースが多いため。

分娩事故を未然に防ぐため、乳用牛・肉用牛の酪農・畜産農家は、分娩に細心の注意を払い、夜遅くまで手助けしている。これは、精神的にも肉体的にも相当な負担となっている。

このため、酪農・畜産農家において、牛の分娩開始タイ

## 農家の負担軽減に期待

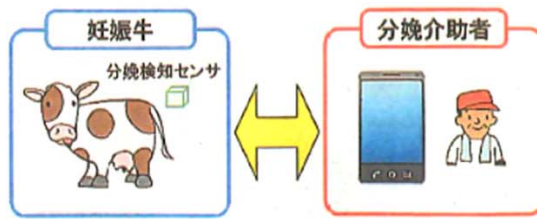
ミングを検出し、分娩介助者に通知するシステムに対する開発ニーズは非常に高い。既に温度計を用いた分娩検知システムが市販されているが、初期投資約50万円のほか、毎

月の運営費用もかかるため、畜産農家の負担が大きく、ほとんどの利用されていないのが現状だ。

そこで、工業総合研究所は、畜産研究所と共同で低価格で、特許出願前なのでシステムの詳細内容は明らかにできないが、妊娠牛の分娩開始タイミングを検出できる検知セ

術部 宮川大志

牛の分娩場面(写真)と分娩開始通知システムのイメージ図



ンサで分娩時に検出信号を発信。情報通信ネットワークを介して、分娩介助者に通知する仕組みだ。

この研究は2015年度から県の補助金を活用し、県内製造業者および畜産事業者と連携して共同で実施しており、17年1月以降、実証試験を計画している。試験で良好な結果が得られた場合、早急に連携している製造業者が事業化を進める。

牛の分娩開始通知システムに関する特許出願は本年度内を予定しており、17年度以降の商品化を目指している。

本装置が完成すれば死亡率低下に寄与し、県内はもとより、全国の酪農・畜産農家にとって、安心して子牛を産む手助けになると期待している。(工業総合研究所電子情報技術部 宮川大志)

東奥日報 平成28年9月23日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。